

目次

赤文字↓鼻濁音

青文字↓濁音

緑文字↓収録用指示なので読みません

「第一章	はじめに」	2
「第二章	鼻濁音とは」	4
「第三章	鼻濁音はどのような時に使われるのか」	6
「第四章	鼻濁音の発声法」	9
「第五章	鼻濁音の入った単語を発声しよう」	13
「第六章	鼻濁音の例外」	16
「第七章	複合語の濁音と鼻濁音」	21
「第八章	まとめのレッスン」	28

「トラック1 第一章 はじめに」(緑文字、は収録しません)
BGMなど。

第一章、はじめに。(タイトルコールです)

こんにちは。

これは、鼻濁音の習得を目的としたものです。

鼻濁音とは何か、どの様にして発声するのか、そしてどの様な時に使うのか。

教則本だけでは解らない実際の声を聞いているレッスンを、
これから皆さんと一緒にしていきたいと思います。

詳しい説明は後ほど致しますが、鼻濁音というのはガ行、またはギャ行を鼻に抜く発声
です。

が、ぎ、ぐ、げ、ご。
ぎゃ、ぎゅ、ぎよ。

これが鼻濁音となります。

しかし、そもそも何故この鼻濁音というものが必要なのでしょうか。
軽くご説明しましょう。

鼻濁音は主に東日本で使われている発声方法で、西日本においては殆ど使われません。
そして東日本においても、若者を中心に使われない傾向が強くなっています。
現在の日本においては、鼻濁音で喋っている人を探す方が難しいかもしれません。

鼻濁音は時代の流れとして消え去ろうとしています。
それも仕方のないことでしょう。

しかし、ナレーター、声優などは、

声のプロとして必ず身に付けておかなければなりません。

まず鼻濁音を使うと独特の柔らかさ、品の良さが出ます。

お嬢様の挨拶である「ごきげんよう」をはじめ、古風な役柄、気品のある役柄では鼻濁音を使うのが一般的です。

そして、やはり女性において、艶（つや）っぽい演技をするときにも、同様に鼻濁音を基本とした、鼻に抜いた発声を使うと良いでしょう。

逆に野性的な役柄、下品な悪役などでは、わざと鼻濁音を使わない演じ方もあります。

また、鼻濁音は息が鼻に抜けるため呼吸や発声が楽になります。マスターすれば滑舌も良くなり、早口言葉もスラスラと言えるようになるでしょう。

おやがめ、こがめ、こまごがめ おやがも、こがも、こまごがも
(親亀子亀子孫亀 親鴨子鴨子孫鴨)

これを全て濁音で発声すると大変です。試してみましょう。

おやがめ、こがめ、こまごがめ おやがも、こがも、こまごがも
(大きさにならない程度に濁音の「が」を辛そうに強調して下さい)

この様に鼻濁音は演技から発声まで、全てにおいて有効です。

もちろんナレーションにおいても、出来ない人より出来る人の方が重宝がられることは間違いありません。

さあ、レッスンの用意はよろしいですか。
それでは始めましょう。

「トラック2、第二章、鼻濁音とは」

第二章、鼻濁音とは。

さて、鼻濁音とは一体何でしょう。

この教材をお買い上げ頂いたということは、それなりに興味があるのではないかと思えます。

しかし詳しいところは解らない、という方が多いのではないのでしょうか。

理論より先に、まず体験して頂くのが一番かと思えます。

これから一つの文章を二回、読み上げます。
違いを聞いていて下さい。

※以降、誤った濁音の発声は、若干その間違い部分を強調させて下さい。

（大学の授業で長井先生から国語を習いました）

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こく^くをならいました。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こく^くをならいました。

お分かりでしょうか。

一回目は、鼻濁音を使った正しい発声、

そして二回目は、鼻濁音で発声すべき場所を全て濁音で発声した、間違った発声です。

もう一度読み上げますので、良く聞いていて下さい。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こく^くをならいました。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こく^くをならいました。

違いが分かりますでしょうか。

より解りやすい例を出しましょう。

お聞き下さい。

鼻濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。(少しゆっくりめに。「鼻濁音の」なども読みます)
濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。

もう一度お聞き下さい。

鼻濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。
濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。

鼻濁音と濁音を聞き分けられる様にしましょう。

鼻濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。
濁音の、が、ぎ、ぐ、げ、ご。

「がぎぐげ」だけでなく、「ぎゃ、ぎゅ、ぎよ」「も、聞き分けてみましょう。

鼻濁音の、ぎゃ、ぎゅ、ぎよ。

濁音の、ぎゃ、ぎゅ、ぎよ。

鼻濁音の、ぎゃ、ぎゅ、ぎよ。

濁音の、ぎゃ、ぎゅ、ぎよ。

理論は後でお話ししますので、今はまず耳で聞いて憶えて下さい。

鼻濁音による正しい発声。

(大学の授業で長井先生から国語を習いました)

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こくごをならいました。

濁音による正しくない発声。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こくごをならいました。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こくごをならいました。

だいがくのじゅぎょうで、ながいせんせいから、こくごをならいました。

違いはお分かりですね。

次の章では、どの様な時に鼻濁音が使われるかをお話しします。

鼻濁音がうまく出せないという方も、気にせずこのまま聞き進めて下さい。

鼻濁音の発声法は、第四章で説明します。

